

令和7年度 学校運営連絡協議会 実施報告書

1 組織

- (1) 都立府中東高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 経営企画室長1名、副校長1名 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務総務主任、生活指導主任、進路指導主任、各学年主任 計9名
- (4) 協議委員の構成
学識経験者1名、近隣中学校長1名、近隣都立学校長1名、青少年対策委員1名、地域代表1名、PTA代表1名、同窓会長1名 PTAのOB会長1名 計8名

2 令和7年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会
第1回 令和7年6月19日（木） 内部委員9名 協議委員8名
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員選出、昨年度学校経営報告と今年度学校経営計画、各分掌・学年からの目標と現状報告、意見交換
第2回 令和7年11月14日（金） 内部委員9名 協議委員8名
授業公開、これまでの教育活動の報告、学校評価アンケートの内容検討、意見交換
第3回 令和8年2月13日（金） 内部委員9名 協議委員8名
学校の現状報告と今年度のまとめ、学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議、意見交換
- (2) 評価委員会
第1回 令和7年11月14日（金） 内部委員2名 協議委員2名
学校評価の基本方針確認、今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討
第2回 令和8年2月13日（金） 内部委員2名 協議委員2名
アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告書）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・回収数・規模
12月 全校生徒 対象：928人 回収：758人 回収率：82%
12月 保護者全員 対象：928人 回収：367人 回収率：40%
12月 教職員 対象：63人 回収：63人 回収率：100%
- (3) 主な評価項目
学校運営、教科指導、生活指導、進路指導、健康安全、部活動及び学校行事、ライフ・ワーク・バランスの推進
- (4) 評価結果の概要
同じ項目では、生徒、保護者、教職員の数値を比較している。
学校満足度は、生徒、保護者共に高い数値を示している。
- (5) 評価結果の分析・考察

①学校生活満足度

・生徒と保護者は約9割が肯定的な回答を寄せているが、教員は昨年比して2割程度の肯定的な回答の減少が確認される。教科指導や生活指導において、種々の課題が表面化する現実を真摯に受け止め、さらなる充実度の高みへと導く手立てを模索していることの裏付けとも捉えられる。

②学習指導

・授業方法の工夫については、昨年に続き多数の教員が実践していると肯定的な回答をしているものの、生徒の2割弱が否定的な回答を寄せている。しかし、9割の生徒が積極的に授業に取り組んでいるとの回答から、教員は生徒の意欲を前向きに捉え生徒の積極性をさらに引き出し続けていかねばならない。

③一人1台端末

・教員が昨年比して1割増加の9割近くの肯定的な回答を寄せている。授業はもとより、一人1台端末の活用による広範な指導が見せつつあることが伺える。ただし、生徒の肯定的な回答が昨年より若干減少していることが課題である。端末の有効活用以前の問題として、日常的な端末の携行と取り扱いの徹底を促し、教育効果を高めていくよう学校全体で指導の在り方を共有する必要がある。

④生活指導

・生活指導の適切さについて、生徒は昨年から1割増加の8割強の肯定的な回答が見られ、学校の指導に信頼を寄せていると判断できる。一方、保護者は昨年に続き7割強の肯定的な回答にとどまり、加えて教員の肯定的な回答が昨年から2割余り減少している。学校としての統一した生活指導の在り方が個々の判断に委ねられ、結果、生徒の肯定的な回答に繋がっていると考えられなくもない。

⑤学校行事

・学校行事については、生徒、保護者、教員ともに昨年に続き高いレベルで肯定的な回答が見られる。学校は、生徒の高い参加意欲を尊重し、企画並びに運営を生徒の手に委ね、自分たちが主役である自覚を涵養し、達成感や成就感を共有させ、帰属意識の高まりへと昇華させていくことが求められている。

⑥地域との連携

・ボランティア活動や府中けやきの森学園との交流活動等について、生徒、保護者、教員ともに高いレベルで肯定的な回答が見られる。生徒会執行部を中心とした生徒の連携意識の高まりは、生徒個々の在籍時の取り組みとして高く評価できるものである。

⑦部活動

・部活動は、生徒と教員は高いレベルで肯定的に捉えている。特に、教員は、非常に高い数値を示し、意欲的に部活動を指導していると回答しており、下支えがあってこそその生徒の回答と受け取られる。

⑧進路指導

・教員は、進路指導について全校を挙げ実施していると回答している。その傾向を受け、生徒の9割強が肯定的な回答を寄せている。保護者の肯定的な回答が横ばいではあるものの、今後も学年相応の段階に応じた進路行事や三者面談の実施など、より丁寧な情報の提供が求められている。

⑨進学指導

・生徒も教員も、補習や夏期講習を通して進学指導が実施されていると高い肯定的な回答をしている。今年度から全教員で指導に当たる方策を取り入れたが、今後も論文指導や面接指導の在り方を共有し、指導方針の一層の向上を図る必要がある。

⑩校内美化

・校内の環境美化については、生徒は9割余りが肯定的な回答をしている。しかし、教員は肯定的な回答が4割近く減少している。ごみ問題は、社会的な課題として自浄能力が問われている。ごみ箱の再設置をはじめ、生徒と教員が一体となり環境保全について相互に具体的な解決策を模索していく必要がある。

⑪施設の整備

・生徒、教員ともに昨年に続き非常に高い肯定的な回答が多い。授業公開や文化祭、部活動の保護者会などを通して、保護者に本校の整備された環境について関心が高まるよう工夫していく必要がある。

⑫保健・安全の指導

・保健だよりやセーフティ教室等を通じた健康や安全に関わる指導は、定期的な機関誌の発行や学期末の有効活用により、生徒、保護者、教員ともに非常に高い肯定的な回答を得ている。

⑬生命尊重の指導

・学校が総力を挙げ、生命の重さや人と人との関わりの大切さについて適切に指導していることにより、生徒も9割以上の肯定的な回答を寄せている。青年期を生きる生徒にとって、命の大切さは何物にも代えがたいことを直視することにより、軽率な行動を厳に慎む姿勢の涵養につながっていると判断できる。

⑭悩みへの相談

・生徒が抱える様々な悩みへの対応は、二者面談の実施やスクールカウンセラーの全員面接及びニーズに応じたカウンセリングなどにより、生徒も教員も昨年に続き肯定的な意見が寄せられている。今後は、本校に入学後の早期且つ3年間を見越した定期的な三者面談の実施や、スクールカウンセラーの保護者面接などをさらに充実させ、実践していくことが求められている。

⑮体罰防止

・体罰防止についての積極的な取組については、教員全員が肯定的であるものの、生徒の1割余りが否定的な回答をしている。この項目に関しては、生徒も保護者も教員も、100%の肯定的な回答に収束することが求められている。改善すべき点には、早急に対処する必要がある。

⑯ホームページの充実

・情報発信やPRについては、生徒と保護者は昨年より微増し高い肯定的な回答が得られている。「府中東高日記」などの更新による学校の働きかけにより、ホームページへの関心の高まりが顕在化している。

⑰ライフ・ワーク・バランス（働き方改革）

- ・部活動を外部指導員に依頼するなど、時代の流れに即した教員の働き方の在り方について、昨年に続き生徒の9割強が肯定的な回答を寄せている。保護者の回答も、昨年から微増している。教員は、働き方の改善へのアプローチにより、昨年より肯定的な回答が微増している。学校は、教員にとっての働き方に対する意識を最大限に尊重し、効率的で実効性のある方策を展開していくことが求められている。

⑱入学満足度

- ・生徒、保護者、教員ともに、9割弱の高い肯定的回答を得ている。課題としては、生徒、保護者、教員に共通する否定的回答の原因がどこにあるのかを問うことである。卒業時に「本校を選んで正解だった」と振り返ることができる学校生活の充実に向け、さらなる満足度の向上を目指し、中長期的に課題の克服に取り組んでいくことが、必要不可欠である。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・学校評価アンケートや、保護者からの意見を基に、学校が抱える課題に対して意見・助言をいただき、今後の教育活動に反映させることができた。
- ・授業見学を実施し、多数の意見をいただいたことにより、教員の授業改善に向けた意識改善を図ることができた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・学校生活や進路指導など、今後も協議会での意見を参考にしながら、学校運営の改善に努める。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

- ・教職員のライフ・ワーク・バランスを推進する。
- ・校務分掌の活性化を図り、学校全体で組織的な教育活動を一層推進する。

(2) 学習指導

- ・アクティブ・ラーニングを活用するなど、生徒に考えさせる授業を推進する。
- ・学力向上を図る授業を実践するため、教科会を充実させるとともに、教員一人一人が分かりやすい授業を実践するための指導方法を改善する。

(3) 生活指導

- ・生活指導部を中心に規範意識の醸成に努める。
- ・本校の生活指導方針を生徒や保護者に明確に示し、落ち着いた学習環境作りに取り組む。

(4) 進路指導

- ・進路指導部が中心となり、大学進学を中心に1年次から3年間を見据えた計画的な進学指導の充実を図る。特に、進路情報の的確な提供ときめの細かい進路指導を実践する。
- ・保護者向け進路ガイダンスの機会を増やし、情報発信の頻度を高める。

(5) 健康・安全

- ・生活指導部や保健部、各ホームルーム担任を中心として、校内環境整備、清掃活動の徹底、校内美化の徹底を図る。

(6) 特別活動

- ・部活動のより活動しやすい環境作りと、生徒実行委員会を中心とした行事を推進する。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	わからない	無回答
2	4	2	0	0	0	1

(3) 意見や要望

- ・年間3回の協議会において、テーマをひとつ設定し、話し合う時間が共有できればいいかと思う。
- ・報告のみにとどまらず委員相互の意見交換が必要である。生徒参加型の協議も検討いただきたい。

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

職員会議 0回 企画調整会議 0回